

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472700426
法人名	医療法人社団 真友会
事業所名	グループホーム けやき
所在地 (電話番号)	宮城県黒川郡大和町吉田字新要害10番地 (電話) 022-345-0811
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(19年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,400 円	その他の経費(月額)	21,600 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	210 円	昼食 340 円
	夕食	340 円	おやつ 110 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	53 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きぼうの杜診療所、黒川病院、トータルデンタルクリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

食事の前に感謝の言葉を述べる若年認知症の方に続き、入居者全員の「頂きます」。自分の役割が自信になり笑顔となった。思いやりをもって一緒に暮らしているという仲間意識を大切に、入居者同士のそれぞれの関係性を意識した質の高いケアの提供を心がけ実践している。適切なケアの提供で周辺症状が改善されていることは、言葉や言動が柔らかくなった、笑顔が多くなった、混乱がなくなって落ち着いたなど家族のアンケートにも感謝の言葉となってあらわれている。ホームは閑静な田園地帯に同法人の老健施設と診療所に隣接して建っている。看取り介護の体制の整備とともに医療の支援体制は整っている事も入居者・家族の大きな安心になっている。入居者がその人らしく暮らせるよう日々願っている管理者と職員の思いがひしひしと伝わってくる大いに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①「相談、苦情の受付の明示」では第三者委員として運営推進会議のメンバーの方に委嘱のお願いをする予定であり、現在取り組み中である。②「地域との交流」では、ホーム側から積極的に働きかけるなど前向きに取り組み改善されている。③「過去の経験を活かしたケア」については、現状に満足することなく更にハードルを高く掲げ厳しい自己評価になった。質の高いケアを目指す意欲を尊重した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票については各項目について、職員各自の気付きや意見・ケアの反省点を踏まえ管理者がとりまとめ作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>これまで4回開催されている。12月に開かれた会議では地域の交流について意見交換が交わされ、地域の「いきいきサロン」の情報が提供されて、来期からの参加が検討された。人権擁護委員の方がメンバーの一員であることは、入居者・家族にも心強い。メンバーの紹介でボランティアの訪問も始まった。町の担当の方もホームへの理解があり、会議を通して地域との交流・支えあいが広がり、管理者は徐々にではあるが手ごたえを感じているということであった。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族ならではの要望はあるが、苦情は今までなかった。職員の異動、健康状態、ホームでの日常風景、金銭管理など、家族の知りたい情報や必要な情報は、月1回発行の「けやき新聞」や面会時に、また適宜電話連絡で適切な時期に行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>アンテナを高く掲げ、行事等へは積極的に出かけ、交流を多く持つよう取り組んでいる。また町内会に加入し、運営推進会議の公開等を通して地域との連携・協力を図り、地域の方々が気軽に訪れるホームになるよう期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの思いがこめられた分かりやすい表現になっている。これからも地域密着型サービス事業所としての果たすべき役割を理解し、ホームが地域の一員として存在する理念はどのようにあるべきか、常に念頭において検討することも必要と思われる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が日々のケアに活かされるよう、日頃から話しをしている。また確認し共有できるよう玄関に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り・盆踊りや盆栽展など地域の行事には職員配置にも配慮し積極的に参加している。地域イベント案内のチェック係を設けるなどの工夫もしている。保育園児の訪問・中学生の見学・高校生の職場体験・ボランティア等の訪問など受け入れ態勢も整っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点の見直しを受け、全職員が課題の改善に取り組んだ。閉鎖的なホームとならないよう、外部評価のアドバイスを活かし日常のケアに役立てている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月に開かれた4回目の会議では、地域交流が話し合われ、「いきいきサロン」の情報と参加への勧めがあった。これまで防災対策などの話し合いを取り上げ、議事録に残している。回を重ねるごとに、確かな手ごたえと成果が見えてきたと管理者は話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今回の評価に町の担当者も同席し、管理者はホームの実情を伝え、連携・協力の大切さに理解を示して頂いた。ホームからの日常的な働きかけはあまり見られない。	○	ホームも待ちの姿勢ではなく、これからは町の主催する講座に講師として出向くなど、具体的なアプローチを重ね連携を図るようお願いしたい。また町の担当者が併設の老健施設を訪問の際に、ホームに立ち寄る機会をチャンスと捉え、意見交換の時間をお願いするなど、協働体制の確立に向け努力して頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	普段の生活状況や職員の異動等が掲載された「けやき新聞」を月1回発行し、家族へ送付している。体調の変化や通院の様子についても随時きめ細かな報告をしている。金銭管理についても領収書を添付し家族の確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会も結成され、家族の信頼がとて厚いことは家族アンケートからもうかがえる。面会時などいろいろな場面で、意見を言っていただけよう心している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は設立時から変わっていない。職員の離職者はこれまで8名で、家庭の事情や理学療法士になるための転職が理由となっている。認知症のケアには馴染みの関係作りはきわめて重要であることを管理者はよく認識しており、法人内の異動も最小限にするなど努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の育成プログラムに沿った研修の機会が設けられている。職員の資質向上に研修は欠かせないと管理者は理解しており、法人の担当者に、すべての職員が研修に参加できるよう日ごろから進言している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者のグループに所属し、勉強会や見学訪問など交流する機会を設けている。管理者が来期からグループの「広報」担当の委員となるので、その活動が新たな交流の広がりにつながるよう期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の話し合いを充分にとり、見学や遊びに来ていただきながら徐々になじめるよう努力している。待機者の中には隣接の老健施設利用者の方もおり、日ごろから遊びにきたりしながら馴染みの関係を築くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、物を大切にしないこと・料理などいろいろ教えていただき、学ぶこと・得るものが非常に多いと職員は話している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの係わりの中で、何気なく表出した表情や動作を入居者のメッセージとして敏感に捉えることの大切さを職員はよく理解している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採り入れている。アセスメント用紙を活用して入居者のニーズを抽出し、職員・家族と話し合い、それらの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時や状態に変化が生じた時には、見直しをしているが、定期的な見直しは行われていない。	○	特に変化が無く状態が安定している場合でも、意思の疎通が困難な入居者の小さな変化の兆しに対応していくためにも、定期的な見直しは必要である。介護支援専門員の資格を職員(1名)が取得したので、来期から役割分担を明確にし、現状に即した見直しとなるようお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	設立以来4年を経過し、馴染みの関係は確立されている。通院のサービス・元の職場の会合や教師であった方の同窓会への出席・遠方の方へのお見舞いの付き添いなど本人や家族の希望に沿って柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時への対応等を考慮して、基本的には隣接する同法人の診療所となっているが、本人や家族の望むかかりつけ医で受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護への体制は整ったが、まだ不十分な箇所がある。職員が迷うことなく統一したケアを行うには、しっかりとサポート体制が必要不可欠である。	○	家族や医師との話し合いの中で打ち出された方針を基に、早い時期での「看取りへの対応・同意書」の成文化をお願いしたい。この点については現在準備中である。職員のストレスや夜勤時の心配などの不安に対しては、行き届いた研修・教育体制の整備を是非お願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については「個人情報提供同意書」が作成され全職員に周知されている。訪問時に居室を見せていただいたが、あらかじめ同意を得ていた方々にも、改めて声をかけ同意を得るなど入居者一人ひとりを大切にしている日ごろのケアの様子があがえた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを重視し入居者本位のケアを心がけているが、若年認知症の方がふとつぶやいた「これでいいのかな」の一言を重く受け止めた。管理者・職員は、入居者がホームでその人らしい生活をおくれるよう希望に沿った支援をしているが、改めて自分たちの知識を高めなければと考えている。	○	ケアの質のハードルをより高く設定し、入居者の自分らしい生活の実現に向け、いっそうの努力に取り組んでいきたいとの意欲を尊重し、更なる前進に大いに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房と食堂・リビングがオープンフロアの造りとなっている。調理中の職員の姿が見え、食欲をそそる匂いが漂い、いそいそと手伝う人・準備をして待つ人など職員と入居者が一体となり和気あいあいの風景となった。「とにかく食事は楽しく」という日頃の支援の様子がうかがえる。「食材確認の時間」が設けられているのも、食事を美味しくする調味料の役目を果たしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後に入る方・夜間に入る(明るいうちは入りたくない)方など希望に沿ってゆっくり入浴していただけるよう支援している。又、入浴を面倒がる方には「やっぱり入って気持ちよかった」と思っていたき次回につながるよう入浴誘導時の声かけのタイミングは勿論、入浴中・入浴後の声かけにも工夫するなど努力している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各部屋に小さなモップ・ちりとり・はたきが、気付いた時いつでも使えるように、さり気なくおいてある。洗濯たみ・食材確認・調理の手伝い・盛り付け・後片付け・買い物など入居者が楽しみながら満足して出来るような場面作りがたくさんみられた。果物ナイフを使いりんごをむき、「家とおんなじでいいんだね」と安心し、自分の居場所をホームに見つけた入居者の様子から、少々リスクを視野にいれた入居者本意のケアの実践がうかがえる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の外出・散歩・買い物・ドライブ・地域の行事への参加等、出来るだけ外に出るようにしている。季節に合わせた外出も多彩である。家族ではなかなか出来ないことへの支援に、家族のアンケートにも喜びの言葉が述べられていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないで自由に出入りできる状況を保障している。外出傾向のある方には散歩やドライブなどで対応している。不穏になる時間を把握し、安全を確認しながら後からそっとついていき、散歩の途中でばったり出会ったという対応方法をとるなど抑制されない自由を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め年4回実施している。運営推進会議で災害についての話し合いも設けられているが、更に地域の人々の協力を得られるよう働きかけをして頂きたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を記録し、各人の食事の状態を把握している。同法人の管理栄養士の指導助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居ながらにして季節の移りが感じられる中庭を囲むように居室が配置され、食堂・リビング・厨房が一体感のある明るいつくりになっている。2~3人でくつろぐコーナーも設置され、生きた空間として活用されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの身の回りの品や大切にしている思い出の写真・趣味の物等に囲まれ、これまでの暮らしを継続した自分らしい生活が送れる部屋になっている。		